

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101436		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム菊南スマイル		
所在地	熊本県熊本市北区鶴羽田5丁目3番30号		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村報告日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本県熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業者新興住宅地にあるが、近隣に小学校や高校のグラウンド・公民館・神社等もあり、常に子供達や地域住民の方と触れ合える環境にある為、積極的に交流を深めている。今年度から、敷地内に家庭菜園を設け、自治会の方々と一緒に野菜作りに取り組んでいる。施設設備もエコを重視し節電効果のある、太陽光発電システム・発熱交換システムを導入する事で、建物全体の温度差もなくなり、安全で健康な環境を整備している。又、関連法人で育てた無農薬野菜を使用する事で、安心・安全かつ、新鮮な旬の野菜を常時提供している事で、入居料金の低設定に繋がっている。当法人は医療法人の為、医療面では協力体制が整っている事から、本人様やご家族様には大変安心してご利用頂いている。2ユニットで構成しているが、ユニット間でも行き来し、入居者様同士がコミュニケーションがとれるよう努めている。基本理念に掲げているように、尊厳を持って生きがいと一緒に見つけ、心穏やかに生活できるよう、職員1人ひとりが入居者様に寄り添い、質の高いケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年を迎えたホームは地域との関わりへの良好な関係が窺えました。特に、地域住民が中心となり整備した野菜畑は駐車場の一角に有り、訪問当日は夏にもたわわに実をつけたナスの木が活気活きと大地に根を張っており、手入れ作業の様子が手に取るように分かりました。葉物等季節の野菜が次から次に植えられ、運営推進委員の皆さんの力と支援でホームの特徴が創り出されています。またハード面においては、地中熱換気システムを利用した建物は明るく静かで、中では穏やかにゆったりとした時間が流れています。職員は両ユニット入居者の状況も把握出来るように朝礼をし、大家族としての対応の様子が感じられました。食事時間には入居者同士、互いにいたわり声を掛ける様子もあり、隣の神社や裏手にある高校のグラウンドは、地域資源を活かした交流が出来るなど日常生活が質の高いものになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの特性を考え、スタッフ全員で作成した基本理念を、交流スペースとユニットの目につきやすい場所に提示している。また、運営推進会議等で、地域の方にも発信し、日々実践に向けて、全員で取り組んでいる。各委員会も理念を明確化し、実践に繋げている。	設立以来の理念は入居者・職員・来訪者にも分かりやすい場所に掲示している。職員への啓発も継続して行っており、運営推進委員会等でも理念を伝えることで地域への啓発を進めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議の出席者の自治会の方から、情報や協力を得ながら、地域の行事に参加している。又地域・家族との交流会を開催したり、施設の畑作りを一緒に手伝って頂いたりしながら交流を深めている。	従来大切にしてきた地域との関わりは毎年のもとなっており、子ども会のボランティア清掃、小学生の町探検受入れも継続している。また民生委員中心で敷地一部を野菜畑にする等新たな関りも出来てきた。	野菜畑では入居者と地域の方々で収穫を楽しんだりと新たな関りの様子が窺えました。近隣施設や住民との地域環境も活かした今後の活動に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に一度全体ミーティング時に勉強会を開催し、運営推進会議委員の方を通じて、地域の方々へ発信を行っている。小学生の町探検や、授業の一環として、施設へ訪問して頂き、認知症の方のグループホームでの生活を知って頂く機会を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動報告書やホームの食事・利用者の日々の状況を報告し、質疑応答を行い、そこで発案された子供会との交流も深め、夏休みの除草作業や、敬老会の慰問等交流に取り組んでいる。	運営推進委員会では入居者・事業所の報告等に加え、地域との意見・情報交換も活発に行われている。地域とは会議を通じて様々な交流が始まり取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者の方にも運営推進会議に参加して頂き、情報・意見交換を行ったり、インシデント等の報告を行いケアサービスのアドバイス等を頂きながら、協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回地域包括支援センターからの参加があり、事業所の日頃の様子や取り組みを積極的に伝え、個別事例の相談等も行っている。会議では地域・家族との情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は行っていない。身体拘束委員による、身体拘束や虐待の勉強会を3ヶ月に1度定期的に開催し、介護保険内身体拘束禁止規定を掲示して全員に周知を行っている。又、毎月の身体拘束自己チェックシートの活用も取り組む予定である。	身体拘束委員会を設置し、毎月職員で記入する自己チェックシートは自分のケアを見直す機会としており、結果は南北各ユニット相互の委員が確認する等意見の出やすい仕組みを作っている。	事業所としての身体拘束に対する取り組みとして指針を作りスローガンを掲示する等、事業所全体で具体的項目を挙げの取り組みが見られました。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加して、勉強会を開催し、認知症特有の症状や病名、周辺症状を誘発しないように周知徹底している。また、常に色々な虐待を見逃さないように、利用者様のスキンチェックを行い、皮下出血等あった場合身体図に記載行している。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修へ参加し、勉強会で資料を配布して、周知徹底を行っている。基本的な人権や倫理とは何かを考え、質の高いサービスをできるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を二部作成し、説明と同意の了承を行い、管理者が契約者と事業者間での契約を行っている。また、制度改正等があった場合は、再度説明を行い理解・納得・同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に状況報告書を配付する際や面会時、また、運営推進会議にも参加して頂き、ご家族の方のご意向や小さな意見にも耳を傾けながら汲み取り、日々のサービス提供に反映させている。また、契約時にも、苦情受付について説明を行っている。	日頃から家族とのコミュニケーション作りに努めており、毎月家族へ送付する入居者の写真は喜ばれている。家族面会時には職員からも声を掛け意見を出しやすい環境を作っている。遠方家族の帰省に併せ運営推進会議を開催したりと、関りの機会作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝朝礼を実施し、職員より業務に関する意見を聞いたり、月に一度は全体会議を開催し、職員全員で意見集約を行い、実践に繋げている。	両ユニット合同での朝礼では毎日の業務の様子を共有し、ユニット間での協力体制も整っている。全職員での毎月の会議の際には、業務だけでなく意見を出す機会でもある。管理者が常駐し日頃から職員と話す機会を多く持ち、意見を出しやすい体制が出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じて、仕事出来るように、希望に沿った委員会を構成している。やりがいを持って業務に取り組めるように、職員の意向を汲み取りながら、日々の業務の残業については、残業手当を付与し、処遇改善加算による賃金UP・職場環境の改善や勤務の調整を行っている。また個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与等に反映できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加を促し、研修を受ける配慮を行っている。研修後は、報告書を作成し、職員全員で閲覧できるように行っている。また、介護支援専門員の専門研修への参加や、介護福祉士実務者研修の参加を推奨し、参加しやすいように勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他部署との請求時の相互訪問チェックや、スタッフの施設見学を設けている。又、同業者の運営推進会議へ出席して、意見交換やネットワーク作りを行い、入居者様へのサービスや質の向上に繋がる関係作りに努めている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様と面談を行い、入居の際に安心して生活が出来るような支援体制を確保する為に、事前に身体状況や要望のアセスメントを行い、情報の周知を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と面談を行った後、ご家族様とも面談を行い、ご家族様のご意向・ご要望等の確認を行い、ケアプランに記載している。契約時に入居に関しての留意事項等について再度説明を行い、ご家族との信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や面談の情報から、暫定の介護計画書を作成して説明し、アセスメントを行いながら、カンファレンスを繰り返し実施し、見極めた支援方法の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持って、生きがいを一緒に見つけ、心穏やかに、共に生活出来るように支援している。また、個々の能力を活かした役割を担って頂き、互いに助け合ったり、励まし合ったりしながら関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添いながらご意向を汲み取り、双方の関係性を構築できるような支援に努めている。ささいな事でも本人様、ご家族様に相談しながら、協力して頂ける事はお願いして連携を取り、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご意向を汲み取り、外泊や外出時の希望がある際には、積極的に支援を行っている。ご家族、友人の面会時も、地域交流スペースにてゆっくり過ごせるように努めている。	家族との関わりを第一に、友人知人の面会も積極的に受け入れている。入居者の希望により以前の知り合いとの面会に繋がった例もある。	入居者それぞれの家族・知人の面会の様子から、事業所・職員の働きかけや関係が良好な様子が見え、入居後の新たな交流も楽しみ支える様子が窺えました。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間で行き来をしたり、職員が介入しながら将棋やおしゃべりなど、円滑にコミュニケーションがとれる支援を行っている。また、個々の出来ない事を把握し、助け合い、互いに支え合える支援に努めている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去・転院する際には、次の施設や病院などへの情報提供を行い、スムーズに移行できるような支援を行っている。また、その後も面会に伺ったり、ご家族が電話や相談しやすい対応に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情を観察し、記録を行いながら、一人ひとりのご意向を確認し、ご家族様とも面会時にお伝えしながら、担当者会議を開催し、介護計画書を作成して、ケアの統一に繋げた支援を行っている。	入居時の面談・担当者会議でしっかりと話を聞き、入居後に備えている。入居後は日常生活の寄り添いの中で意向を把握し、家族の意向も確認しながら随時現状に即したケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際には、前任の介護支援専門員やご家族様から、情報収集を行いフェースシートを作成し、暫定の介護計画書を作成している。また、日々の経過記録を取りながら、問題があれば、カンファレンスを開催して、統一したケアの支援が出来るよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リズム表やバイタル表に、一日の体調や排泄リズム等を記録し、心身状態については、生活の記録を残している。記録から現状把握し、普段と変化がある場合は、特記事項や申し送りノートに記載し、職員全員が周知できるように努めている。また、個々の有する力も把握し、役割を担って頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月担当者が、状況報告書を作成し、ご家族にお伝えし、課題や問題点の把握に努めている。状態の変化やケア方法に問題がある場合は、カンファレンスを実施し、必要がある場合はその都度介護計画書の更新を行い、ケアの統一ができるよう努めている。	入居者それぞれに対し、職員からの状態変化等による気づきで都度カンファレンスを行い対応を検討している。必要に応じて介護計画の見直しを行い、情報は職員間で共有しケアの統一を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の受診やケアについて、生活の記録や申し送りノート・リズム表に記載し、特記事項などは、蛍光ペンで囲うなどして、スタッフ全員が周知できるよう工夫を行っている。また、個別の支援経過記録を記載し、モニタリングの際に経過を振り返る資料として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務を振り返る為に、毎月全体ミーティングを行い、入居者の方の意向を集約し、業務の改善に繋げている。入居者も職員も、ユニット間の行き来に制限を設けず、柔軟に対応し、状況に応じたケアの取り組みをカンファレンスを通じて実践している。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の自治会や民生委員の方々と連携をとりながら、ホームの畑作りや収穫を手伝って頂いている。また、近隣の店に買い物と一緒にいくなど、地域の方々と交流ができるような暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医との関係を大切に、受診や往診時に指示を頂いている。又連携が取れるように、必要時には、書面にて状況報告書の提出を行っている。また、受診の際には、ご家族の要望等ある場合、一緒に付き添い、看護師やスタッフがDrに日々の状況を報告している。	入居前からのかかりつけ医での受診を継続支援している。通院は基本的に家族協力によるが場合によっては職員の通院介助も行い、協力医からの往診もある。家族との通院の際は情報共有を徹底している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタル測定を行い、業務日誌・リズム表等を確認しながら、朝礼時や各勤務時に申し送りを行っている。異常がみられた場合は看護師に相談・報告を行い、再検し適切な受診が行われる様支援を行っている。また、内服薬は2重チェックを行い、与薬時にも再度声に出し確認して、間違い防止に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、基本情報の提供等を行い、医療機関との連携に努めた支援を行っている。入院中も相談員さんからの状態報告や、面会に伺い、状態の把握を行っている。退院時には、送迎等の調整や、看護サマリーや診療情報提供書の情報にて、関係機関と連携を行いながら、再入居の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化及び看取りについての説明を行い、協力医療機関との連携も図りながら、支援を検討する旨をお伝えしている。入居中も、本人様のご意向が聞かれた場合には、記録に記載している。重度化した際には、ご家族様のご意向の変化等も汲み取っていく支援に努めている。	重度化や終末期を迎えた際の対応は、家族・かかりつけ医との協力・関りも大きなものであると考えている。開所以来事例もあり、看取りについては職員勉強会を行っており、入居者・家族の希望があれば支援に努める。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の全体会議及び勉強会を活かし、急変時や事故発生時の対応について学んでいる。また、消防署職員による、救急蘇生法の講習にて、実践力に繋げた取り組みや、スムーズな救急搬送が行えるように、救急医療連絡シートの活用を行っている。職員には緊急連絡網を配布して連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の全体会議及び勉強会を活かし、職員全員に周知して、災害時の対応策等を検討しており、常に水や備蓄も用意している。また、災害時の公民館の水の使用などについても、自治会の方から了承を得ている。消防署職員立ち合いの元、避難訓練も実施し、消火器の使用方法や適切な指導・助言等を頂きながら、災害時に備えた対策を行っている。	年2回避難訓練を行っている。立地的に水害等は心配ないと考えているが、自然災害に備え食料備蓄も行っている。地域と連携し水の確保にも備えている。消防署からの助言により緊急・災害時の対応の見直しを行っている。	運営推進会議を利用し避難訓練実施報告が確認できました。事前お知らせにより、事業所の取組み状況を開示することも今後の地域の協力を得る良い機会になると考えます。

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の行動や表情を観察し、記録を行いながら、一人ひとりのご意向を確認し、ご家族様とも面会時にお伝えしながら、担当者会議を開催し、介護計画書を作成して、ケアに繋げた支援を行っている。また、排泄等の声掛けもプライバシーを尊重した対応に努めている。	尊厳を持ったケアは事業所の方針でもあり、会議等を利用して勉強会や対応について話し合い振り返りを行っている。特に排泄や入浴時には配慮しており、入居者それぞれに合わせた声掛けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも、衣服の選択や好みの食物等、色々な自分好みの選択ができるよう、自己決定しやすい質問の声掛けをして、希望の自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせ、本人様の意向を汲み取り尊重した生活の支援を行っている。又1日の始まりには、業務の調整を行い、入居者様の意向に沿って支援出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時には洗顔・ヘアーセット・髭剃り等の支援も行い、衣服の選択など、ご本人様と一緒に身だしなみに気を付けた支援を行っている。また、訪問美容室時に、希望の白髪染めや顔そりができ、おしゃれを楽しむ支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、食事の下ごしらえや味見なども一緒に行っている。また、一人ひとりの状態や活動量に合わせて、食事形態や食事を調整して提供している。食事摂取時間も、自分のペースで摂取して頂き、また、どうしても苦手な食物やアレルギーがある場合は、違うメニューにて提供しながら、食事時間を楽しんで頂いている。また、食後には、生活リハビリの一つとして、お膳拭きや掃き掃除等も手伝って頂いている。	2ユニット同じメニューをそれぞれのユニットで職員の手作りにより提供している。法人の農園より野菜が届き、季節毎の野菜をふんだんに使った献立は、入居者の関わりも持ちながら作られている。入居者それぞれに役割が自然と出来ており、互いに声を掛け合ったりと支え合う様子も自然である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食のご飯類に関しては、本人様の好みや好みの量、体調や栄養状態に合わせた提供を行い、2度炊きやミキサー食の提供を行っている。副食についても刻み食や一口大ミキサー食で提供し、水分等も一日の必要量を確保した提供を行っている。栄養バランスを考えたメニュー表も作成し、バイタル表やリズム表に毎食摂取量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、個々の嚥下状態に合わせ時間を置きながら行っている。口腔状態に合わせ舌ブラシやスポンジブラシ・マウスウォッシュを使用するなど、一人ひとりの口腔状態に合わせた、口腔内の清潔保持に努めた支援を行っている。また、磨き直しを行い、夜間帯には義歯を義歯洗浄剤にて除菌し、管理している。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設にてオムツ類の管理を行い、リズム表にて排泄パターンを確認し、昼夜とも、トイレの声掛け、誘導を行い、トイレ介助の排泄の自立に努めた支援を行っている。また、尿側を行い、無駄のないように、一人ひとりにあったパッドを使用しオムツの軽減に努めている。	排泄リズム表を活用し、昼夜とも出来るだけトイレでの排泄を支援している。入居者によっては声掛けの頻度や言葉にも配慮し、自然な対応を心がけている。パットの利用もあるが、安易なオムツへの移行は行わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リズム表にて最終排便を夜勤帯でチェックし、便秘予防の為に食物繊維の多い食材の提供を行ったり、運動をするなど予防に努めている。排便が出ていない場合には、看護師にて腹部膨満等の確認を行い、冷たい牛乳やバナナ等の提供を行っている。また、かかりつけ医にも上申して、内服薬や坐薬での排泄支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の方の希望のタイミングや意向も汲み取りながら、週に2回の入浴支援を行っている。個々の状態に応じた入浴支援を行い、訪問美容室日は、できるだけ散髪後に入浴支援を行うようになっている。また、便失禁の汚染時もシャワー浴を行うなど清潔保持に努めている。	体調や意向も考慮し、週2回以上の入浴支援している。失禁等の際は都度清潔保持のため入浴日にこだわらない。両ユニットに浴槽があり、うち1か所に機会浴が備えられている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	10時・15時には水分補給とおやつなどを提供し、TV体操を行い、散歩を行うなど身体を動かして、生活のメリハリが持てるような支援を行っている。定期的な受診により、夜間の入眠状況等も上申しながら、内服薬での入眠を促した支援も行っている。また、本人様の生活習慣を考慮し、状況に応じた支援を行ない、安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後には薬情をカルテに綴じて、受診後には蛍光ペンにて、生活の記録に記載し、情報共有できるように取り組んでいる。内服薬のセットは、2重チェックを行って確認し、内服時に再度声に出し誤薬防止に努めている。内服後には、リズム表やバイタル表に与薬者名を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、個々の能力や楽しみ・生活歴を把握して、簡単な家事や除草作業・掃除を手伝って頂き、本人様の残存機能を活かした役割が持てる支援を行っている。天気の良い日には、気分転換の為に散歩に出かけたり、畑の収穫・隣の神社掃除をしたり、庭での日光浴等を行っている。嗜好品も、ご家族からお預かりし、本人様の楽しみとして提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出支援は行っていないものの、行事等の企画を立てて、地域の夏祭りや地域のレストランで外食を楽しむなど、外出支援を行っている。また、近隣の散歩や隣の神社でのお花見や、ご家族との外出やドライブを楽しんで頂く支援を行なっている。	事業所は神社に隣接しており気軽な散歩が出来る。入居者には喫煙者もあり、屋外で職員との時間を楽しむ様子も見られる。計画による外出もあり、行事として全入居者で出かけている。	周辺環境に恵まれており、散歩や外でくつろぐ時間は日常生活そのものである様子が窺えました。継続した支援に期待します。

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物レク等の時には、できるだけ、本人様の手から支払うなど、それぞれの力に応じた支援に努めている。お金の支払を心配される利用者様には、臨機応変に財布に安心される金額を入れて所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が家族の声を聞きたい時や、用事がある時等、電話したり取り次いだりして、安心して頂いている。また、はがきを出したい時は、本人様に書いて頂き、スタッフが書き添えたりして、自由にやりとり出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域交流スペースを中心に開放感ある空間作りを行っていたが、スタッフとの馴染みの関係を構築したり、見守り支援を強化する為にも、各ユニットを区分けして、生活支援を行っている。地熱利用換気システムの採用やペアガラスによる、断熱効果なども行い、天井には天窓を設置して自然光を取り入れた作りとなっている。天気によっては、カーテンを開放して、外の景色や天気分かるようにしている。施設内の感染予防の為に、次亜塩素酸加湿器を設置して、空気清浄も行っている。	家族面会や来訪者も利用する地域交流スペースをはさみ、左右にユニットは配置されている。地中熱換気システムを利用した年中安定した室温で、穏やかに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人ひとりくつろげるように席を配置している。交流スペースや各ユニット毎にソファを設置し、だれもがくつろげるような空間作りを行い、気の合う利用者様で語りあいながら過ごせる居場所を作っている。また、共用スペースには、行事の写真を掲示しており、好きな時に眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全部屋個室使用での対応となり、本人様の状態や好みに合わせた間取りの配置を行っている。入居時には使い慣れた馴染みある家具類やテレビの持込、また、家族の写真を飾ったりして、自宅の雰囲気になくなるような、居心地の良い居室作りを行っている。	入口それぞれにのれんが掛けられており、入居者の様子を表している。居室には家族の関わりが感じられる。嫁入りタンスの持ち込みも見られた。居室入口には避難確認用の札も掛けられ安全への配慮もある。	全体的に居室内には家族の関わりを感じることが出来ました。入居者の環境もあるでしょうが、今後も入居者の心地よい生活空間作りのため、家族への継続した声掛けに期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには余分な物を置かず、バリアフリーの空間を活かした環境作りに努めている。床面にもクッション素材の物を使用していて、転倒時の骨折のリスクを少しでも軽減できる環境作りを行っている。また、省エネルギーにも配慮して、太陽光発電の設置や樹脂サッシで、冷暖房に備えた作りとなっている。廊下やドアは、トイレへ独りで行く時に、安全に分かりやすくする為に、表示や目印を貼っている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホーム菊南スマイル
作成日 平成 30 年 12 月 25 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	スタッフの基本となる認知症ケアの知識不足がみられる。	認知症ケアの理念「パーソン・センタードケア」の実践。	スタッフのスキルアップを目指し、毎月の勉強会や研修への参加。他施設の見学。	12ヶ月
2	27	入居者様へのケアの統一ができておらず、個別ケアの実践が出来ていない。	入居者様個々に寄り添った個別ケアの実践。	入居者様がこれまで歩んでこられた人生や好きな物等を把握し（ご家族に協力して頂く）コミュニケーションや個別ケアを行う事で、入居者様がホームで楽しく穏やかに過ごせる生活を提供していく。毎朝の朝礼時に問題点のカンファレンス等行う。	12ヶ月
3					
4	35	避難訓練時に、地域への開示が出来ていない。	避難訓練を、自治会や地域住民の方と一緒に行う。	運営推進会議時に、避難訓練の取り組み内容を開示し、自治会や地域住民の方への協力を得て、合同の避難訓練を行う。	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。